

(別添 3)

【神奈川県藤沢市】

校務DX計画

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の中間まとめ（2024年（令和4年）8月26日付）（以下「中間まとめ」）では、全国的に統合型校務支援システムの整備率が年々上昇している一方で、そのほとんどが校務支援システムを自前のサーバー上に構築して閉域網で運用を行う方法（いわゆるオンプレミス方式）がとられているため、GIGAスクール時代の教育DXや働き方改革の流れに適合しなくなっているとの指摘がなされている。当市においても、以下に示すものが校務DXを推進するうえでの課題となっている。

1. 校務DX推進にあたっての課題

（1）校務系・教育系ネットワークの分離により、各種データの連携が困難

現行の学校ネットワーク基盤では、統合型校務支援システム等にアクセスするための校務系ネットワークが、校務外部系及び学習系ネットワークとは論理的に切り離されているため、各ネットワーク上に蓄積されているデータの連携が困難となっている。

（2）校務系ネットワークへの学校外からのアクセスが不可能

これまではセキュリティを担保するネットワーク構成として、学校外からは校務系ネットワークにアクセスできない構造となっており、学校外での校務処理が不可能なことから、教職員の働き方に制約が生じている。

（3）不完全なペーパーレス化

職員会議等でオンラインストレージ上での資料共有を行うといった形でのペーパーレス化は徐々に広がりつつあるものの、保護者・地域への資料配布や、保護者面談の日程調整等については、未だ紙媒体で行っている学校も多く、教職員の負担となっている。

2. 課題解決に向けて

（1）学校ネットワーク基盤のフルクラウド化

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言等を踏まえ、現行のネットワーク基盤契約が終了する令和8年度までに、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じることを前提としたネットワーク（いわゆるゼロトラストネットワーク）構成への更改を検討している。これにより、以下に示すような形での課題解決が図れると期待される。

- ・校務系・教育系ネットワークの統合により、各ネットワーク上に保存されている各種データの連携が容易になり、校務におけるデータの利活用が促進される。
- ・アクセス制御を前提としたネットワークのフルクラウド化により、ロケーションフリーで校務用端末を使用することができるようになり、教職員のニーズに合わせた多様な働き方が可能となる。

※校務のロケーションフリー化にあたっては、教職員の負担とならないよう、勤務時間を適切に管理する仕組み等を整備することを前提とする。

なお、当市ではゼロトラストネットワークへの更改に向け、2024年（令和6年）10月からネットワーク専門業者によるコンサルティングを受けており、現行ネットワーク基盤の課題や、ネットワークのフルクラウド化によって負担の軽減が図れる業務の洗い出しを行っているところである。

（２）保護者連絡ツールの導入及び活用促進

2025年（令和7年）4月に保護者連絡ツールを更新する予定である。

これにより、次に示すものについては、保護者連絡ツールを活用することが期待され、教職員の負担軽減及び更なるペーパーレス化の推進に資するものと考えられる。

- ・児童生徒の出欠席等の連絡の受付
- ・教育委員会または学校からの各種お便りの配布
- ・面談日時等のスケジュール調整
- ・保護者からのアンケート回収